

流れてきた！きた！そうめん おいしいね。

緑が丘中学校区青少年育成協議会西城山支部では、昨年からの地域をあげて「そうめん流し大会」を開催しています。昨年も今年も、200名を超える方が西城山小学校の運動場に集まり、大盛況でした。

そうめん流しの準備をしている間、子どもたちは地域の方に教えてもらって、竹で水鉄砲を作りました。作った水鉄砲で、的当てゲームをおもしろかったね。



学校の畑で収穫したてのキュウリに塩をつけてポリポリ...うめえ!!! 校長先生からの差し入れでした。



割ったばかりの青竹のどいを、涼やかにそうめんが流れていきます。子どもたちは大喜びで「おいしいね」。暑い中、地域のお母さんたちが家庭科室でがんばって茹でたそうめんは、20kg。竹の切り出し、どいの組み立ては連合自治会・PIA・社協・民協・老人会の方が協力してくださいました。大変だったけど、来年もまた、ぜひ開催したいと思います。

子どもゆめフエスティバル '15

11月28日(土)12:00～15:00に、長崎県立総合体育館(サブアリーナ)で開催されます。子どもたち手作りのゲームコーナー、

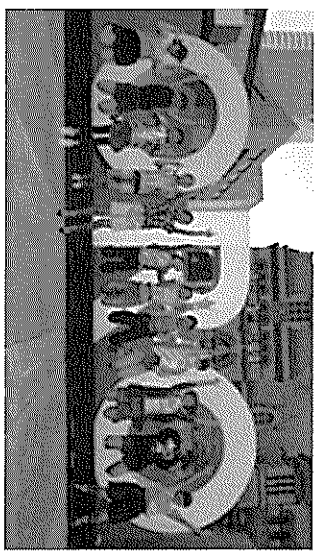
スライジ発表などの楽しい催しが盛りだくさんです。全て無料で遊べるので、子どもさん、大人の方、皆さんのご来場をお待ちしています！



- ゲームコーナー
 - ひょうきんどはし
 - テニス
 - 吹き矢
 - 野球のしけん
 - ボクおな
 - イラレ
 - スライジ
 - キット
 - ピッコ
 - 大当り
 - つくり
 - クニゲット
- その他盛りだくさん！

子どもゆめ体験

「子どもゆめ体験」は、次世代を担う長崎の子どもたちを姉妹都市・市民友好都市等に派遣し、現地の人々との交流を通じて「個性輝く世界都市」としての人的ネットワークを拡大するとともに、文化・習慣などを肌で感じることに、国際性を育する人材の育成を図ることを目的に実施しています。今年度は、長崎市内の16人の中学生が、8月19日から26日の日程で、日本初の姉妹都市提携から60周年を迎えるアメリカ・セントポール市とカナダ・トロント市を訪問し、ホームステイ等を通して、現地の人々との交流を深めました。



<感想> 今回の貴重な体験を活かして、これからは皆さんの国の文化を肌で感じたり、もっといろいろな国に平和を発信したいと思います。また、どんな時も積極的に何事にもチャレンジしたいです。

編集後記

2015年は1945年の終戦から70年という節目の年です。8月15日前後には、様々な行事が全国各地で行われ、平和について特集する報道番組も多く目にしました。昨今、ヨーロッパに流入する避難民のニュースを目にするたびに、平和の大切さを改めて考えます。日本で70年間保たれた平和な生活は、勤勉でまじめな国民性で急成長した経済によって支えられてきたものでしょう。また、豊かな自然と温暖な気候によって、生きていくために最低限必要な水と食料を十分に与えてくれる国土に生活できる「幸せ」を忘れてはいけません。

のびゆく 79 編集後記 2015年10月28日発行

のびゆく長崎っ子 79

今号の内容

- ★緑が丘中学校区育成協の取り組み
- ★子どもゆめ体験
- ★第38回広島・長崎子ども会親善交歓会
- ★子どもゆめフエスティバル '15
- ★編集後記

つなげ人と心 地域の輪 子どもの出番を広げよう きらめく長崎の子どもたち



皆さんは新聞や本を読んでいるとき、「この漢字なんと読むんだろう」と思ったことないですか。

- ① 悩らす
- ② 恤える
- ③ 屑し
- ④ 慄らす
- ⑤ 踞る
- ⑥ 轟く
- ⑦ 雷
- ⑧ 流石
- ⑨ 瘠く
- ⑩ 融

答えは最後のページ下にあります。

広島・長崎子ども会親善交歓会

広島・長崎子ども会親善交歓会が8月21日～23日の日程で行われました。長崎団が49名参加し、広島団99名と交流しました。子どもたちは平和について考えたり、新たな友だちと友情を築くなど、有意義な時間を過ごしました。



日見小 5年 佐藤 優里香

この交歓会で成長したこと

この広島・長崎交歓会で成長できたことが四つあります。一つ目は、友達をたくさん作れた事です。最初は、仲良くなれるか不安でいっぱいだったけど、しゃべっていくうちにどんどん仲良くなれてよかったです。

二つ目は、自分の役わりを果たすことが出来たことです。私は食事係でした。はんなり人数分つぐえにはいせんするのはたいていへんだけど、広島の子供たちと、協力して全員分運びました。

三つ目は、平和について考えることができたことです。私はこの2泊3日の中で一番成長できたと思います。平和だから生きていられちゃいけないことわかっていましたが、この2泊3日を通してふたたび思い出す事ができてよかったです。なと思います。

そして四つ目は、活動中の約束を守ることができたことです。活動がたっさんあったので一つ一つの活動におくれないように気をつけました。はんなりみんなとかたまって行動して、はんなりいよにしました。活動をがんばったので、ぐっすりねることができてよかったです。

この交歓会を通して、いろんな人と関わりが持てたことと、とてもいい思い出になりました。またこのような交歓会があれば参加したいです。

広島でつくった思い出と友達

この広島・長崎子ども会親善交歓会の目的は三つあります。一つ目は「友達をいっぱい作るうー」二つ目は「P E A C E (平和)についてかんがえよう」三つ目は「君もリーダーになるうー」でした。私は三つのがすべてできたのでうれしかったです。

一つ目の「友達をいっぱい作るうー」では、自分の班、宿泊班以外の人もたくさん仲良くなれました。キャンパスライナーで、話したことが無い人と交流することができました。

二つ目の「P E A C E (平和) についてかんがえよう」では、平和記念公園や原爆ドーム、平和記念資料館に行きました。原爆ドームはほとんどそのままで残っていたので、とても迫力があった。この原爆ドームのほぼ真上に原子爆弾が落ちたんだと思うと、とても怖かった。平和記念資料館では、椅子さんが追った折鶴が展示されています。私は以前「折子の千羽鶴」という本を読み、鶴を折り続けたと書いてあったので、その実物を見てうれしかったです。

三つ目の「君もリーダーになるうー」では、原爆の子の像のところで長崎代表として折鶴を奉納し、原爆犠牲者のすべての方々にご冥福をお祈りするために黙祷しました。

この交歓会に参加して、平和について、広島のことについて、そして友達の大切さなど様々なことを学びました。この交歓会で学んだことを学校生活や普段の生活に生かして、自ら積極的にリーダーになるうーと思います。

広島に行って感じたこと

僕は今回、広島・長崎に参加して、「人との関わりの大切さ」と「平和の大切さ」について学びました。

まず人との関わりの大切さについてです。それは、見ず知らずの広島の人と同じ部屋に寝て、同じ風呂に入るととても仲良くなれたからです。それに、僕自身あまり人見知りがないので、キャンパスライナーの時とかに色々な人と組んで、色々なことを喋ったから、これからの人生で生かしたいです。

次に平和の大切さについてです。僕は今まで、「なんか、長崎と広島に原爆落ちたんだなあ。」くらいだったけど、資料館やドームに行っただけで大切さを感じました。ここで、僕の平和への思いを書きます。平和とは「この世の中に戦争がおきないで、この世の中の人の全員が楽しい思いをせずに笑顔で生活し、日々を過ごしている世の中のこと」だと僕は思っています。だからそのためには、兄弟げんかとかをせずにしようと思います。

最後に、この広島・長崎で今まで戦争は遠いものだと思っていたけど、自分の近くに存在するものだと思いました。だから、けんかとかせずに日々の努力を欠かさず、平和へ自分も協力できるように頑張ろうと思った。

橋中 2年 渡邊 寛人

東長崎中 1年 山田 輝

広島・長崎に参加して

指導者 池田 安芸枝

今年、被爆70年の年に広島・長崎子ども会親善交換会に参加させていただき、改めて平和について、また人とのつながりや思いやりの大切さを感じることができました。

昨年は、安佐南区の悲しい自然災害で中止となり、1年越しの広島・長崎でした。片道7時間半の道のりでしたが、あつという間に過ぎ、宿舎へ着くと広島の方々に温かく迎えていただき、長距離の移動の疲れもどこかへ消えていきました。

平和公園での献花、そして原爆資料館では時間をとり、ひとつひとつゆっくり時間をかけて見ることができました。原爆の恐ろしさを後世へつなげたいという思いや、平和への願いが、長崎とは違った展示がしていました。

私は今年8月9日、平和公園へ参列しました。こんなにくくさんの人が平和を望んで参列しているのに、どうして核兵器や人種差別が無くならないのだろうか、あの恐ろしい一発の原子爆弾で今も苦しんでいる方々を何も思わず、今も核兵器を保持している国があるんだらうと、感じたのを思い出しながら資料館を見学しました。

宮島の散策やキャンパスライナーは、子どもたちにとってたっさんの思い出をつくることができました。最終日、広島の子どもたちのお別れセレモニーでは、1人ずつにたっさんの思い出の詰まった日記や「また会おうね」という、メッセージが書いてあり、この出会いをずっと大切にしようという約束をして別れました。

この短い3日間、子どもたちはいろんな事を体験し、あの暑い中助け合いながら散策し、友達の大切さを改めて感じています。この経験を生かし、今後いろんな所で思いっきり発揮してほしいなと思います。

指導者 梶 聖悟

今年、原爆70年を迎えられて70年でした。参加した子どもたちは花束と千羽鶴を献花、献鶴して、仲間と折り、何を思い何を感じ取ったのでしょうか。それぞれの思いを込めて折った鶴が千羽鶴になり、皆の思いを一つにして奉獻する事の意味を感じとってとっけているようでした。

平和記念公園を回りながら、原爆ドームを目の当たりにして、折鶴の展示物を見ながら、その後で仲間と語り合い、また自宅に帰り家族と話をし、平和の大切さ重みを感じ取ってとっけたことでしょうか。

毎年、予想してなかったいろんな問題をリーダーの「空」のメンバーが中心になって解決しています。頼もしいものです。

初めてあった仲間と、異年齢の小学校5年生から中学校3年生までの班で、ましてや長崎だけじゃなくて広島、仲間と寝食を共に過ごすのです。親元を離れて大変な冒険なのではないでしょうか、その年齢、その子の持ち味に応じて役割をこなして長崎に帰って来るころには一回りも二回りも成長しているのです。本当に夏いと毎年感じます。

私たち大人は押しつけにならないで、子どもが自ら先人や被爆者の方々の声や思いを受け継ぎ、語り継いでいってとっけるようにお手伝いをしなさいといけません。大人も子ども以上に先人や被爆者の方々の声を聴き学んでいってとっける。毎年の事ですが、2泊3日の日程の中、子どもを見守りながらサポートしていき、難しさを今年も感じ、反省しました。参加した子どもたちはそれぞれ一杯何かを得ようとしています。何か考えている時にすぐ大人がやってしまおうのではなく、それぞれに感じた役割を自分で認識し、やっていける環境を作ることが大切。平和を学ぶこと、仲間を作ることも、広島・長崎の仲間と親交を深めること、大人と接すること、など、たっさんの素晴らしい経験を通して成長する子どもたちといっしょに参加できたことに感謝します。

この行事に関わってくださった皆さんに「ありがとう」と言わせて頂きます。

本部リーダー 野中 紀希

私はこの交歓会に小学5年生の時から参加していて今回で7回目になります。中学1年生の時からはジュニアリーダーとして小・中学生の団員をサポートしています。

私が交歓会を通していつも思うことは、友達と協力する大切さと平和の尊さです。初日はコミュニケーションを取るのも大変ですが、日を重ねるにつれみんなが打ち解けていき一つ一つの活動で協力していい交歓会になっていきます。

今回の交歓会では、実際に被爆された方々の高齢化が進んで、生の声を聞く機会が少なくなっているのを感じました。私の祖母も被爆者で私自身被爆3世です。今までは祖母から原爆のことをあまり聞いたことがなかったので、これからはしっかりと自分から平和を伝えていければいいと思います。戦後70年広島・長崎を越えて、不幸しかもたらすことのない無意味な戦いをやめるため、自分にできることを考えていきたいと思います。

被爆から70年 あなたなら子どもたちに何を伝えますか？